



メデイカル クオール

2015

5

MAY

No.246

今月のKEYPERSON

特集



サンドロ・ボッティチェリ
《聖母子と二人の天使》
1468-1469年頃、テンペラ、油彩・板、107×75cm
ストラスブール美術館
© Photo Musées de Strasbourg, A. Plisson

岩田めい達の医事放談

医療の問題点と現状を憂う②

医療構造改革の今日的課題⑩

「市民の目線で医療と介護を考える会」の報告書を読む
医療保障政策研究21

トレンディ・レポート

2025年に向け地域医療構想策定がスタート
診療側は診療報酬誘導とのリンクを懸念

医療変革期の病院経営戦略⑯

地域医療連携推進法人

国際医療福祉大学大学院教授 武藤 正樹

山根哲郎氏 パナソニック健康保険組合松下記念病院院長
「医療においても、変わってはいけないものと変わらなければならぬものを使い分けることが重要だと考え、今学術総会では『不易流行』をテーマに掲げました」

「宮崎キュアケアネットワーク」の取り組み
医師兼ケアマネジャーが描く地域包括ケアシステム
成功のポイントは「多職種の顔が見える関係」の構築

「ボッティチェリとルネサンス フィレンツェの富と美」は、
Bunkamura サ・ミュージアムで6月28日(日)まで開催されている

地域密着型介護サービスの提供を目指す「株式会社のもと」

全国地域医療研究会 川内 保幸 (川内保幸税理士事務所)

今回は、兵庫県たつの市にてデイサービス等を運営している「株式会社のもと」の代表取締役野本利明様に、法人の設立経緯や今後への取り組みについてお話をうかがいました。

【株式会社のもと】の概要

○本店所在地…兵庫県たつの市御津町黒崎268

○運営する施設等

・株式会社のもと姫路支店(姫路市西今宿)

・デイサービス綾部山荘(たつの市御津町)

○業務内容…ケアプラン作成(相談室あり)、訪問介護サービス、通所介護サービス(デイサービス)、短時間・泊り込み等の付添介護(在宅・病院)

○インタビュー内容

Q. 法人の経緯についてお願いいたします

昭和五四年五月 法人設立

昭和五四年六月 厚生労働大臣許可、看護婦、家政婦紹介所として開業

平成二二年四月 指定居宅介護支援事業、訪問介護事業

平成一六年四月 通所介護事業の開始(デイサービス綾部山荘開業)

平成一八年四月 予防介護事業参入

長年家庭や病院での介護をお手伝いする家政婦を紹介派遣しておりましたが、介護保険制度が施行されると同時に将来を見据え現在の形態になりました。高齢化社会、少子化、核家族化がどんどん進み、介護を担う施設の必要性和需要がますます多くなると感じた次第からです。

お年寄りとその家族に安心して喜んでいただける、そして地域にも貢献できる企業を目指し、これからも努力してまいります。

Q. 利用者様と接する際に心がけていることをお聞かせ下さい

1. 住み慣れた家で暮らしたいという願いに添えて暖かい心とやさしい手で接する

2. 利用者様の身体の状態をしっかり理解して安全に気をつけて親身になって接する

3. 見つめて、触れて、語りかけるユマニチュードを遂行する

4. 利用者様には尊敬をもって接し、家庭事情や個人情報に関することには充分に注意をし原則立ち入らないスタッフともども、より一層安心して利用できる場を提供したいと願

っています。

Q. 地域において、介護施設がどのような役割を果たせるかお聞かせ下さい

利用者様は、たつの市、姫路市、太子町が大半です。高齢化社会を迎え、六五歳以上の占める人口(高齢化率)が各自治体とも二五%を超え三〇%に迫っています。

少子化と長寿社会が重なり、介護が必要なお年寄りはほとんど増え、それを支える若者は減り、介護保険制度の財源も先がみえず、自治体は困窮するばかりです。

また、核家族化が増え、家族による介護もままならないのが現実です。国の方針は在宅介護を推進し、その運営を自治体主導にしようとしています。それらの結果として老老介護、孤独死などが増えているのは周知の通りです。

自治体も少子化対策、同居世帯の補助、自治体活動、ボランティア活動の推進を図り、地域でお年寄りを守ろうとしています。

弊社においてはそれぞれの地域の現況を知るため、地域ケア会議等に積極的に参加し、特に在宅での介護の要望に応えたいと考えています。



コスモス畑



花見



外観



提灯作り



盆踊り



花植え

地域に信頼される施設を目指し、自治体との連携と地域とのコミュニケーションをさらに大切にしていきます。今回のインタビューを受けるに当たり、川内保幸先生が「地域包括会計事務所」として、地域に根ざした医療・福祉経営の支援活動をされると聞き、私達も介護事業者として微力ながらサポートさせていただきたいと思います。

Q. 医療機関との今後のかかわりを、どのように考えておられますか？

基本的にはそれぞれの利用者様のかかりつけ医との連携を大切にしていきます。医療と介護の連携は必須です。自治体や市民病院にある地域連携室を通じ、医療機関と協力してお年寄りとその家族が安心できるシステムを構築したいと思います。

その一環として、地域ケア会議において自治体との連携、緊急時の対応、職員の教育を中心にさまざまな活動を進めています。

Q. 会計事務所に期待することはございますか？

利用者様に信頼していただける施設になるには、設備にも人材育成に

も投資が必要です。質のよい介護、医療を行うには健全な経営がなくてはなりません。無駄をなくし必要な投資をする。そこに会計の専門家の助言が必要と考えています。

現在、川内先生が中心となって立ち上げた土業グループ「恵愛サムライコンシェルジュ」は、お客様の利便性向上を第一に考えられ、地元の資格業者連携による「ワンストップサービス」で問題解決に尽力されています。また、勉強会も同時に開催していると聞きましたので、弊社も積極的に参加したいと考えています。会社の健全経営があつてこそ、介護施設の将来もみえてくると思いますので、末永いご指導をお願いいたします。

Q. 社長が今注目している、また目指していきたいことはございますか？

これからますます高齢化社会になります。団塊の世代が後期高齢者となり、介護が必要となる時が間もなくやってきます。私たち介護にかかわるものとして、微力ながら社会に貢献できる企業を目指します。

国や自治体には少子化対策や福祉政策を期待します。